

「オーセンティシティ」創出による 文化的景観の変容

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース人文地理学研究室

12210130 林 美沙季

はじめに 研究背景①

〈研究の視点〉

「伝統の創造」や「文化のオーセンティシティ」

「創り出された伝統」

「日付を特定できるほど短期間——おそらく数年間に生まれ、急速に確立された『伝統』」を指す（ボブズボウム1992）

真正な文化の生産や維持にとって、観光というシステムが果たした役割を問い直す研究（荒山 1995）

→意味や価値が充填された国土空間の生産という切り口



土地に意味や価値を付与する制度→文化的景観

はじめに 研究背景②

「文化的景観」

研究対象：**視覚的**にとらえることができるもの

- ・茶畑の栽培システムの変遷と景観の変遷の関係（楊・下村 2018）
- ・井波彫刻業が景観形成に果たした役割について（須山 2003）

地域を対象とする地理学において、視覚的要素だけにとどまらない地域の包括的理解は、本質的課題の一つ（坂本 2018 a）

→**住民の生活に密着した音も文化的景観の要素**としてとらえることができる考える

「サウンドスケープ」に着目

- ・作曲家マリー・シェーファーが1960年代後半に提唱
 - ・「聴覚的景観／音の風景」を意味することば（鳥越 1990）
 - ・住民と音との関係の研究：荒井（2002）、坂本（2018 a）
- 住民の音に対する意味付けや経験についての分析**を踏まえた地域理解の議論が十分に展開されていない

はじめに 研究背景③

文化的景観

2004 「文化的景観」制度創設
→風致景観の保護から生業・風土
に根ざす景観へ拡張
→国民が共感できる日本文化の
真正性を制度化
✓景観を評価する法律や条約の中
で音環境に直接触れているもの×

サウンドスケープ

定義：人々がどう知覚・理解する
かに重点を置く音環境
1996 「日本の音風景100選」
①地域固有性②場所らしさ
③人々の関わり を重視
→身近な音が「国の代表的な音」
として語られる仕組みへ

共通点

- ・近代に成立した価値付けの制度
- ・空間に新たな価値を形成し、国民に価値を認識させる
→ローカルな景観や音をナショナルな文化へ位置づける装置
- ・日本文化の「オーセンティシティ」（＝フィクション）を構築する過程
→視覚中心の景観理解を超え、地域を包括的に理解する視角へ

はじめに 研究目的

地域を包括的に理解するため、サウンドスケープと文化的景観の統合的理解という分析視角

- ✓ 文化的景観の研究で扱われてこなかった**聴覚的な側面**
- ✓ サウンドスケープ研究で議論が不十分な**人間活動**

- ・ 観光現象に伴う街路整備
 - ・ 価値付けのシステム（文化的景観・サウンドスケープ）
- 文化のオーセンティシティを創出した過程を明らかに



価値付けのシステムが文化的景観に与えた影響について、景観を表出した人間の活動に踏み込んで分析・考察する

はじめに 研究対象地域：八尾旧町

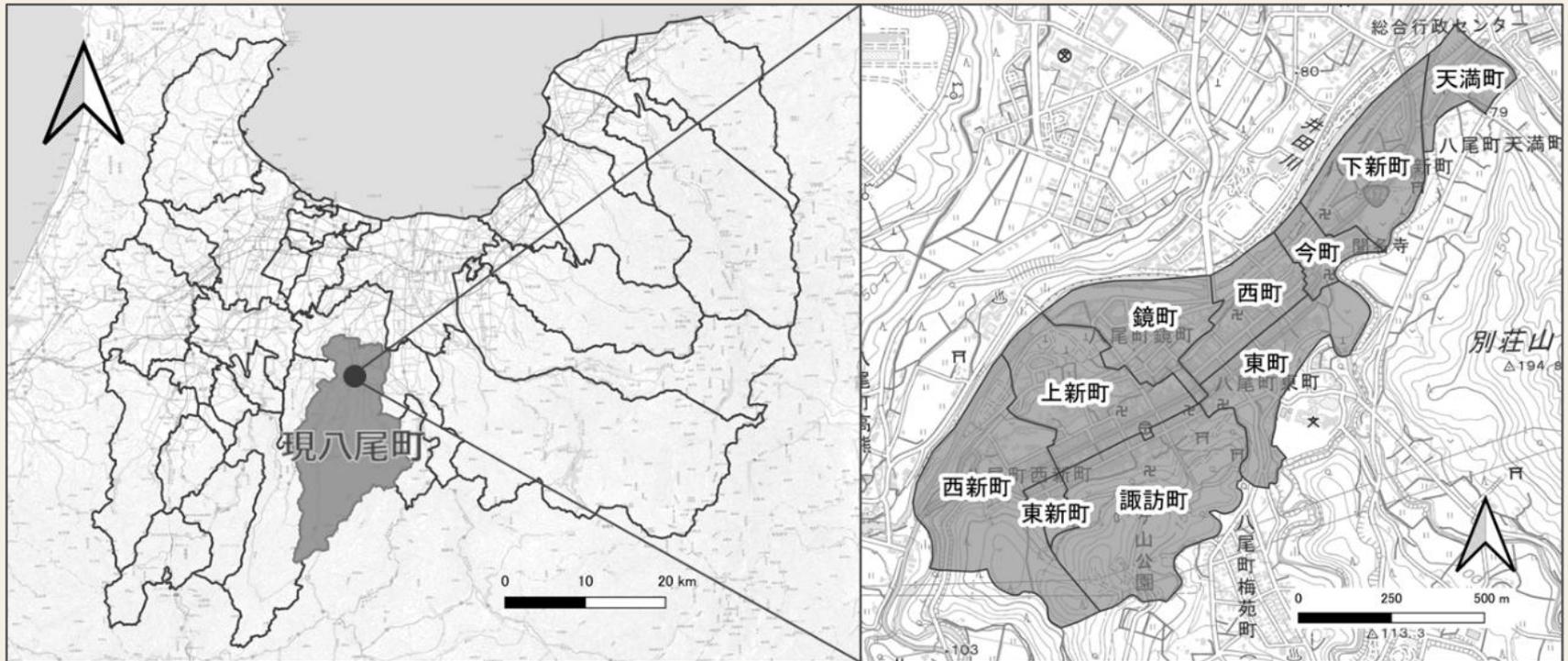


図1 研究対象地域

((左) 行政区域界は2000年のデータ. (右) 行政区域界は1950年のデータ.
(両方) 背景は淡色地図. により作成) .

はじめに 研究対象：エンナカの水音

エンナカ = 八尾用水

『八尾町史』によると、

- ・「美観を添える溝水路で、野積川から分水している**防火用水路**」
- ・「常時流水しているので、防火のみならず、冬期における**融雪用**にも重要な用水である」

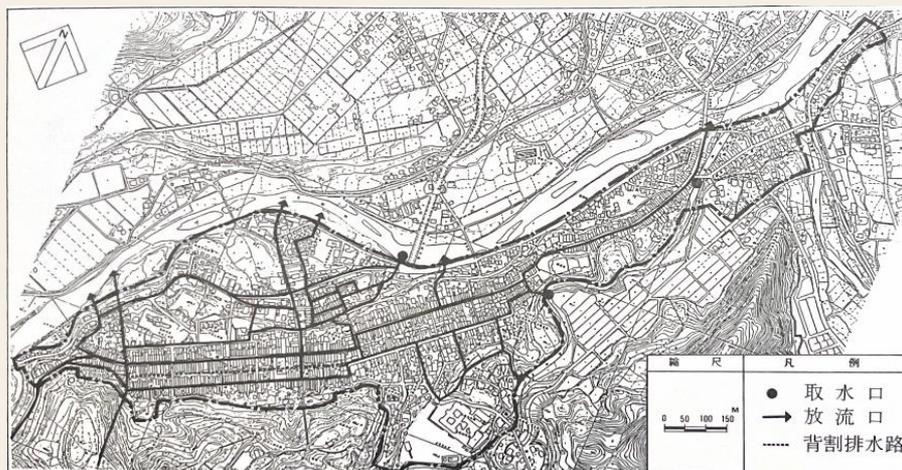


図2 エンナカの現況
(創計画研究所1990から引用) .



図3 旧八尾町を流れるエンナカの様子
(2025年8月15日著者撮影) .

はじめに 研究方法



アンケート調査

- ・ 2025年9月実施
 - ・ 配布数200部以上
→147部の回答
 - ✓ 調査項目（全30問）
 - ①八尾町で聞こえる音
 - ②エンナカの音への意識
 - ③エンナカへの意識・扱い
 - ④回答者属性
- ※山下（2001）、坂本（2018b）を参考に作成



聞き取り調査

- ①住民4名
 - ・ 2025年11月実施
 - ✓ 詳細なエンナカの利用方法やエンナカの音に対する意識
- ②八尾常水路組合組合長
 - ・ 2025年9月実施
 - ✓ 八尾常水路組合という地域組織によるエンナカの維持

➡ 以上の調査結果から、荒山（1995）の指摘を参考に考察を行う

エンナカの形成過程

エンナカ整備と街路整備の歴史的過程

● 八尾町のまちなみ修景

表1 八尾町の主なまちなみ修景事業と出来事

年	事業	その他
1986	八尾町HOPE計画	「日本の道100選」に選出
1988-1995	八尾魅力ある まちづくり基本計画	・ おわらの踊り子を描いた デザイン蓋の設置 ・ 玉石を埋め込みせせらぎ の音を演出する整備
1990-1999	八尾町歴史的地区 環境整備街路事業	
1996		「日本の音風景100選」に選出

(加藤2017；後藤・島田2009により作成)

住民のための運動・観光も意識した運動

→おわらを訪れる観光客の安全を考慮し、昔は生活用水
だったエンナカに蓋が設置され、流れる水の量も少なくな
った (小林2010)

エンナカの形成過程 街路整備がエンナカへ与えた影響

表2 八尾旧町における住民属性別・用途別エンナカ利用者数（人）

		回答者 総数		利用者 総数		洗濯・ 食器洗い		水遊び		水まき		散策		融雪		消火		清掃		食材洗い		その他	
		現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去	現在	過去
	全体	111	108	108	103	1	22	2	30	21	48	2	8	97	78	12	19	10	27	2	4	9	6
性別	男性	71	69	69	66		14	1	17		34		4	62	46	8	15	6	14	1	3	6	6
	女性	39	38	38	36	1	7	1	11		14	2	4	34	31	3	4	4	11	1	1	2	
	不明	1	1	1	1		1		1					1	1	1		1				1	
年齢	20歳代	2	2	2	1					1				2	1								
	30歳代																						
	40歳代	6	6	5	6				1	1	1			4	4				1				
	50歳代	15	14	15	12		2		3	3	7			13	9		3	1	2			2	1
	60歳代	30	29	29	29		5	1	9	5	13		3	28	22	2	5	2	7		1	2	4
	70歳代	42	41	41	39	1	11	1	13	6	14	2	5	34	27	8	6	6	10	1	1	3	1
	80歳代	15	15	15	15		3		3	4	10			15	14	2	4	1	6		1	2	
	90歳代	1	1	1	1		1			1	1			1	1	1				1	1		

空白は0。現在：現在，利用している 過去：過去に利用していた 複数回答である。
(アンケート調査(2025年9月)により作成)。

- ・ 利用方法減少の要因：暗渠化率の高さ
エンナカや街路整備による街路の拡張に伴って暗渠化

➡エンナカへの近接性の低下・利用者数の減少

エンナカの形成過程 街路整備がエンナカへ与えた影響

表3 住民によるエンナカ維持の必要性に対する意識（人）

		計	住民による水路維持		無回答
			必要	不必要	
	全体	147	101 (68.7)	8 (5.4)	38
性別	男性	97	67 (69.1)	3 (3.1)	27
	女性	49	33 (67.3)	5 (10.2)	11
	不明	1	1 (100.0)	0 (0.0)	0
年齢	20歳代	2	2 (100.0)	0 (0.0)	0
	30歳代	1	0 (0.0)	0 (0.0)	1
	40歳代	7	4 (57.1)	2 (28.6)	1
	50歳代	22	14 (63.6)	1 (4.5)	7
	60歳代	40	26 (65.0)	2 (5.0)	12
	70歳代	54	42 (77.8)	1 (1.9)	11
	80歳代	19	12 (63.2)	2 (10.5)	5
	90歳代	1	1 (100.0)	0 (0.0)	0
	不明	1	0 (0.0)	0 (0.0)	1

括弧内は割合（%）

（アンケート調査（2025年9月）により作成）

表4 住民の属性別水路清掃活動の有無（人）

		計	清掃活動の有無		無回答
			有	無	
	全体	147	68 (46.3)	43 (29.3)	36
性別	男性	97	55 (56.7)	16 (16.5)	26
	女性	49	12 (24.5)	27 (55.1)	10
	不明	1	1 (100.0)	0 (0.0)	0
年齢	20歳代	2	0 (0.0)	2 (100.0)	0
	30歳代	1	0 (0.0)	0 (0.0)	1
	40歳代	7	4 (57.1)	2 (28.6)	1
	50歳代	22	6 (27.3)	9 (40.9)	7
	60歳代	40	20 (50.0)	9 (22.5)	11
	70歳代	54	30 (55.6)	13 (24.1)	11
	80歳代	19	7 (36.8)	8 (42.1)	4
	90歳代	1	1 (100.0)	0 (0.0)	0
	不明	1	0 (0.0)	0 (0.0)	1

括弧内は割合（%）

（アンケート調査（2025年9月）により作成）

八尾旧町におけるサウンドスケープの変容 八尾旧町の音環境

八尾らしい音事象を古川・佐々木（2010）の研究を参考に類型化

- 1 行事音
- 2 水関連
(内エンナカの音35件)



水関連の音は
八尾町の中で重要な音

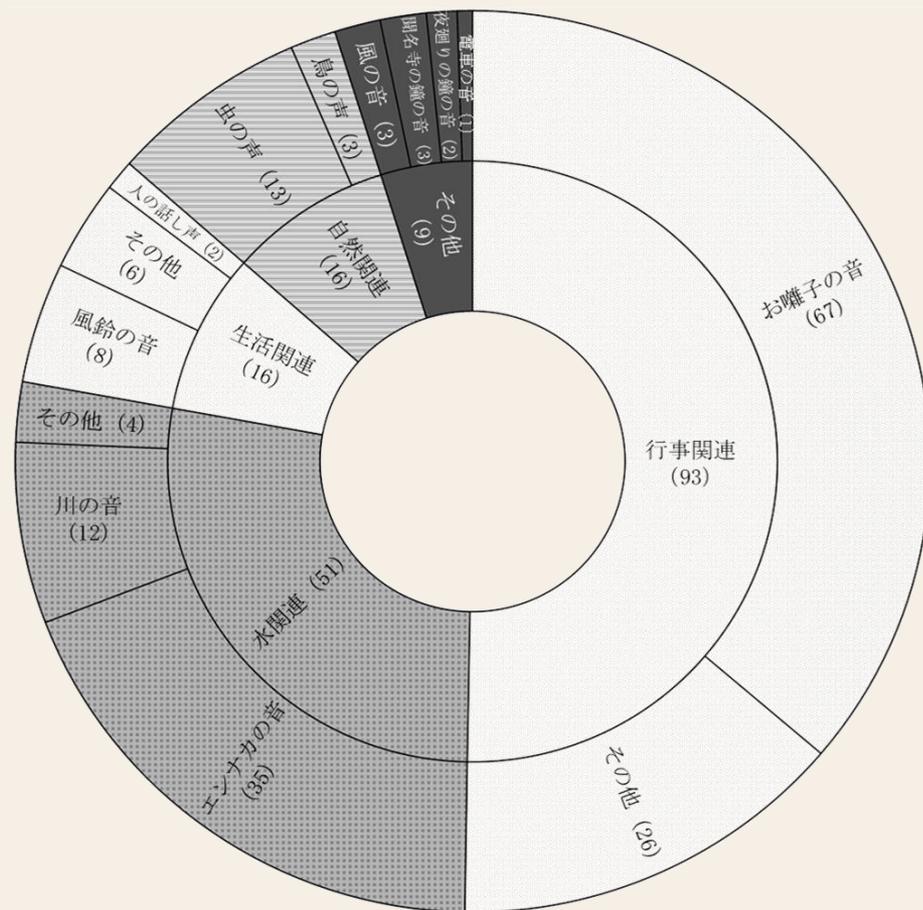


図4 住民が想起する八尾らしい音（件）
(アンケート調査(2025年9月)により作成)

八尾旧町におけるサウンドスケープの変容 エンナカの音に対する住民意識

アンケート調査から

Q. エンナカの音が観光客を呼ぶ資源になると考えるか

A. なる：25.2% ならない：67.3%

Q. エンナカの音が地域への愛着を生む要素になると考えるか

A. なる：42.2% ならない：51.7%

→エンナカの水音は住民にとっては重要
観光客には魅力とならないと考える住民が多い

聞き取り調査から

40年前に富山市掛尾町から引っ越してきたB氏

「引っ越してきた当初はエンナカの音の騒々しさに驚いた」

「川の音も相まって夜中は特に聞こえる」

→八尾町の外から訪れた人にとっては新鮮な音であると感じる
➡住民にとっても町の外の人にも特別な音となりうる

八尾旧町におけるサウンドスケープの変容 エンナカの音に対する住民意識

アンケート調査から

「昔のエンナカは開渠になっていて流れる水音が聞こえ情緒があった（70代男性）」

「エンナカの水音に癒された（70代女性）」

「エンナカが深い側溝になり、水の音が聞こえなくなってきた。嫁に来た頃は、浅いエンナカだったので、エンナカの水が身近だった。（60代女性）」 →以前と現在のエンナカを**比較**した回答

以前は現在より音が聞こえ、住民にとってエンナカの音が身近だった

八尾旧町におけるサウンドスケープの変容 エンナカの音に対する住民意識

アンケート調査から

Q. 日常生活のなかでエンナカの音を意識して聞いているか

A. はい：12.9% いいえ：82.3%

→エンナカの音を普段から特に注意して聞いているわけではない

「風の盆の3日間が過ぎた後、エンナカの音に混じってどこかでおわらの音が鳴っているような幻聴を毎年感じる（50代男性）」

「風の盆で深夜の地方まち流しとエンナカの音と秋の虫の音だけが聞こえて来ている（50代男性）」

普段は意識していないような音が非日常な場面で聞こえることにより、改めて意識された

「伝統の創造」による文化的景観の変容 住民のエンナカの音環境に対する認識の変化

- 住民は古くからエンナカを生活で利用
現在も地域に必要不可欠な存在
- エンナカそのものだけでなく、音も重要な
ものとして認識

溝の拡張→音も変化

➡ 住民が想起するエンナカの音というものは
以前とは異なる

「伝統の創造」による文化的景観の変容

文化的景観の変容の要因

- 住民の利便性向上 + 観光への対応
→ エンナ力整備・街路整備
 - ➡ ・生活用水としての利用のしにくさ
 - ・人間の営為は失われつつある
- せせらぎの演出 = 価値付けの運動を意識
- 価値付けの制度が文化的景観を再編

「伝統の創造」による文化的景観の変容

文化的景観の変容の要因

✓ 荒山（1995）での指摘を基に整理

- 1 文化的景観やサウンドスケープといった価値付けが国家の政策に取り込まれ、観光資源として成立
 - 2 結果として文化的景観やサウンドスケープは意味や価値の充填された国土空間の生産に寄与したととらえることが可能
 - 3 文化的景観やサウンドスケープ選定の潮流が、全国各地に文化のオーセンティシティとなるような観光資源を創り出す契機となった
- ➡ 八尾旧町のエンナカにみられる文化的景観の変容は、伝統を創造しようとする国の政策による影響を受けている

おわりに

サウンドスケープ・文化的景観

- ✓ 意味や価値を国土空間に充填
- ✓ オーセンティシティとなる観光資源を創出する契機

- ✓ エンナカにみられる文化的景観の変容は、
伝統を創造しようとする政策的影響を受けた文化的
景観の再編過程

文献

- 荒井 歩 2002. 郡上八幡における水路網と伝統的音環境に関する研究. ランドスケープ研究 65: 711-716.
- 荒山正彦1995. 文化のオーセンティシティと国立公園の成立——観光現象を対象とした人文地理学研究の課題. 地理学評論68A: 792-810.
- 加藤夏奈 2017. 八尾の伝統的家屋と町並み保存. 野澤豊一・藤本武編『地域社会の文化人類学的調査26 富山市八尾町の生活文化』87-102. 富山大学人文学部文化人類学研究室.
- 後藤あかね・島田 一 2009. 八尾旧町の景観づくりと住民. 竹内潔編『地域社会の文化人類学的調査18 富山県八尾町の祭と観光——伝統と現在を生きる人々』151-170. 富山大学人文学部文化人類学研究室.
- 小林美幸2010. まちなみ修景による「八尾像」の変容. 富山大学人文学部人文地理学研究室卒業論文.
- 坂本優紀 2018 a. 住民による地域のサウンドスケープの発見と活用——長野県松川村におけるスズムシを活用した地域づくりを事例に. 地理学評論 91: 229-248.
- 坂本優紀 2018 b. 石川県金沢市における用水路が作り出すサウンドスケープ. 地理科学 73: 197-211.
- 篠原 修 2009. 時代を画す文化的景観の概念とその展開. ランドスケープ研究 73: 2-5.
- 須山 聡 2003. 富山県井波町瑞泉寺寺門前町における景観の再構成. 地理学評論76: 957-978.
- 創計画研究所編1990. 『八尾町歴史的地区環境整備街路事業調査報告書』八尾町.
- 鳥越けい子 1990. サウンドスケープとはなにか. 環境技術 19: 409-411.
- 鳥越けい子 1997. 『サウンドスケープ——その思想と実践』鹿島出版会.
- 古川日出雄・佐々木葉 2010. 生活景に着目したまちの音と住民の意識に関する調査研究. 景観・デザイン研究 講演集6: 141-147.
- ボブズボウム、E. 1992. 序論——伝統は創り出される. ボブズボウム、E.、レンジャー、T. 編著、前川啓示・梶原景昭他訳『創られた伝統』9-28. 紀伊國屋書店. Hobsbawm, E. and Ranger, T. eds .1983. The invention of tradition. Cambridge University Press, Cambridge.
- 本中 眞2009. 国内外の文化的景観に関する最近の動向. ランドスケープ研究 73: 6-9.
- 八尾町史編纂委員会編 1967. 『八尾町史』八尾町役場.
- 山下亜紀郎 2001. 金沢市における都市住民による用水路利用と維持への参加. 地理学評論 74A: 621-642.
- 楊真・下村彰男 2018. 宇治白川地区における覆下茶栽培地の文化的景観と栽培システムの変遷に関する研究. ランドスケープ研究 (オンライン論文集) 11: 86-94.